

動物の診察室から

○ 18 ○

現在、新潟市の白山公園には三頭のニホンザルが飼育されています。メスザルの花子とりのり子、オスザルの太郎です。四月のコラムで書いたのですが、平成十年に白山公園に来て、年末に誰かが



点滴を受ける太郎

おさるの病氣

鍵をはずしたため脱走し、翌春鉛中毒で大変な目があった後も、白山公園のおさるさんたちは、

三年前から、花子とのり子は、春になると花粉症で、目をしょぼしょぼさせています。太郎は三年前新潟に来た時は、まだ四歳ほどの若サルで、もう一頭いたオスザル「ボス」には頭が上がりませんでした。鉛中毒で一命を取り留めた後、太

ボスの座を懸けた争いがある時としてあり、太郎は背中を三十秒切るようなげがや、かまれたところが化膿したことが幾度かありました。ちょうどそのころ、太郎は人のインフルエンザの感染で大変具合が悪くなったこともありました。その後は、体格もボスより大きくなり、ボスは逆に太郎に

がさせられるようになってきましたが、今年の春にボスが亡くなってからは、けんかの相手もいなく平和に暮らしていました。しかし先日、太郎の具合が悪いと電話があり見に行くと、あの元気な太郎が横になりとてもだるそうにいました。

いきましたが、今回の症状とは関係はなく、急性の腎炎でした。治療として点滴と抗生剤の投与です。その日は麻酔下で点滴ができましたが、次の日からは点滴は無理ですので、ケージの隅に押しやって、皮下補液をします。でもそれは十分な治療ではありませんし、太郎には大きな

な姿になって、公園に来る人を和ませてくれています。もつだめかと思われた太郎ですが、その後だんだんと回復し、今は元気な姿になって公園に来る人を和ませてくれています。前回のコラムで、「ア

点滴、薬治療は人間並み

三頭だけですが、元気で長生きしてほしいですね。

× ×

